

# 令和4年度 事業報告

## 1 総括

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、事業計画として掲げた事業については、感染防止策を講じたうえで展開することができた。

事業展開に当たっては、当協議会のプラットフォーム機能の発揮による千葉県経済の活性化を念頭に、会員提案による事業の創出と自走化、会員間の連携・協働などを促進した。

具体的には、アフターコロナの事業形態につながる効果的な取組を目指し、成田空港を活用した新しいビジネス創出を促進する事業（「航空／空港関連企業との商談会」、「ランドオペレーターとの商談会」等）や、更なる機能強化を見据えた人材育成として教育機関等と連携した人材育成や知見の活用を目指す事業（将来的な人材育成・確保に向けた体験型航空教室など実施支援事業）、コロナからの回復期の空港利用を促進するため、過去5年間の成果を更に拡大していく事業（「空港利用回復事業」等）を中心に取り組んだ。

また、新規事業として、脱炭素についての基本的事項などを学ぶ「脱炭素社会推進支援事業」の取組や、新しい働き方を活用して地域活性化を目指す、「成田空港・周辺地域と連携したワーケーション・テレワーク推進事業」を実施した。

## 2 事業の概要

### 【1】ビジネス支援事業

#### ○ アクティビティ（体験型）商品開発

##### 【成田空港を活用した新しいビジネス創出を促進する事業】

訪日外国人向けのアクティビティ（体験型）の公募とモニターツアーの実施により、将来的には、県内へのインバウンド誘客に繋がる有償ツアーの商品化を目指すもの。

令和4年度においては、平成30年度から令和3年度にかけて実施したモニターツアーの振り返りや参加事業者へのヒアリング等により、これまでの活動から得た知見をとりまとめるとともに、同内容について会員等へ共有するための報告会を開催した。

- アクティビティ（体験型）商品開発に係る取組については、会員団体による事業の自走化を図っていく。

## ○ 航空／空港関連企業との商談会

### 【成田空港を活用した新しいビジネス創出を促進する事業】

航空／空港関連企業と（会員企業を含む）県内食品事業者とのビジネスマッチングを行うことで、成田空港を起点とした新しいビジネス（取引）の実現を図り、県経済の活性化につなげるもの。

5回目の開催となる令和4年度は、食品の卸売・小売・機内食等を展開するバイヤーと県内食品事業者との個別商談及び展示商談を実施し、県経済の活性化及び航空／空港関連事業者との取引機運醸成を図った。

成約の後押し及び商談スキル向上のため、前回に続いて専門家による事前研修や個別アドバイスを行うなど、商談に不慣れな参加者にも安心して参加いただけるようきめ細やかな支援を行った。

日 時：令和4年11月1日（火）

場 所：ホテル日航成田（成田市）

参加者：バイヤー 15社（16部門）

サプライヤー 46社（県内に事業所・生産拠点をもつ企業等）

開催方式：事前マッチング型の個別商談及び展示商談

対象品目：「千葉ならではの」という特徴をPRできる商品

- 前回に続いて専門家による参加者への支援を丁寧に行った結果、商談会当日及び商談会后2～3か月後の成約率が前回は上回った。また、当日での商談成立には至らずとも、バイヤー・サプライヤー双方から「継続的な商談をしていきたい」という声が聞かれ、通常であればなかなか接点を持つことができないうえに、コロナ禍で取引が停滞しがちな状況下においても新たな商機獲得に貢献することができた。
- 次回以降も新型コロナウイルスの感染予防対策が必要な状況であれば、感染予防対策には十分配慮しつつ、参加者が商談を行いやすい環境作りを引き続き検討する。

## ○ ランドオペレーターとの商談会

### 【成田空港を活用した新しいビジネス創出を促進する事業】

当協議会と千葉インバウンド促進協議会の共催のもと、会員企業、団体及び自治体にランドオペレーターを活用していただくことで、千葉県を訪れる訪日外国人旅行者の増加に向けた魅力的な旅行商品の造成に繋げることを目的に、平成27年より1年毎に開催していたが、コロナ禍の影響により3年間開催を見送っていた。

令和4年度は、3年振り6回目の開催となった。商談会については、最大21件もの商談(商談会自体では最大10件)を行ったバイヤーもあり、盛況であった。セラーについても希望どおりの商談87%と、満足度が高いものであった。

日 時：令和5年2月16日(木)

場 所：京成ホテルミラマーレ(千葉市)

参加者：セラー 25社、42名

バイヤー 18社、28名

- 3年振りとなる開催で注目度の高かった商談会であった。共催の千葉インバウンド促進協議会の参加者会員との細やかな連携により、アジアをメインに活動してるランドオペレーターの外に、新たにヨーロッパ等をメインに活動しているランドオペレーターの方にも参加いただいた。
- 参加した会員からは、今後も引き続き行って欲しいとの声があった。参加者からの要望事項などを踏まえ、次年度以降も継続的(年1回程度)開催を検討する。

## ○ 脱炭素社会推進支援事業

### 【成田空港を活用した新しいビジネス創出を促進する事業】

県内企業において脱炭素への取組が遅れており、その主な理由が脱炭素に取り組むノウハウの不足であることを踏まえ、脱炭素を進めるに当たっての基本的事項、具体的な脱炭素の進め方、取組事例等を取り上げることにより、会員の脱炭素に向けた取組を支援するため、セミナーを開催した。

日 時：令和5年2月22日(水) 13時30分～16時30分

場 所：TKPガーデンシティ千葉 4階コンチェルトA

参加者：会場参加者 22名

オンライン参加者 46名(申込者数)

内 容

(1) 第1部：講演

①地域脱炭素の実現に向けて一脱炭素を進めるにあたっての基本的事項—  
環境省関東地方環境事務所 地域脱炭素創生室(放射能汚染対策課長)

和田 直樹 氏

②千葉県の脱炭素の取組や県の補助金について

千葉県 環境生活部 温暖化対策推進課 企画調整班 副主幹

宮腰 克広 氏

③カーボンニュートラルに向けた省エネのススメ

一般財団法人省エネルギーセンター 省エネ技術本部

省エネ技術センター長 藤林 晃夫 氏

④千葉銀行の脱炭素の取組や県内企業の脱炭素の取組

株式会社千葉銀行 法人営業部 成長ビジネスサポート室 室長

羽山 明 氏

(2) 第2部：意見交換及び名刺交換（会場参加者のみ）

①各班で自社・自団体の脱炭素の取組状況、課題等（課題を中心に）  
について、意見交換

②各班から意見交換概要の発表

主な発表内容について、講師の方からのご発言。

③名刺交換

講師の方及び会場参加者の方で自由に名刺交換。

- 参加者からは、「自治体と企業の連携に関して、今後の取り組みに向けて参考となった」「脱炭素に関する基本的な事項の理解に大いに役に立った」「さまざまな業界の人との意見交換は、とても有意義だった」などの声が寄せられ、本セミナーの開催は、事業目的である「会員の脱炭素に向けた取組みを支援」に一定程度、寄与するものであったと考えられる。
- 引き続き、脱炭素関連のセミナーなどの開催を検討する。

○ 日本文化の発信によるターミナル空間の価値向上及び近隣エリアへの誘客

**【県・市町村が行う地方創生関連事業と連携・連動した事業】**

成田空港を経由する訪日外国人や県外観光客の県内への誘客を促進するため、国立歴史民俗博物館が所蔵する「江戸図屏風」をもとに令和元年度に製作した「光る江戸図」を、4言語（日本語・英語・中国語・韓国語）対応の解説用ICT機器と併せて成田空港内で展示を行うもの。

設置場所が新型コロナウイルス感染症の影響で閉鎖されていることから、公開できない状態が続いている。

**【実施状況】**

期 間：令和2年3月12日（木）～令和6年3月31日（日）

設置場所：成田国際空港第2旅客ターミナルビル 出国手続き後エリア

（「NARITA SKY LOUNGE 和」内）

- 展示の再開を目指し設置期間を延長し、引き続き展示品を活用した県内交流人口の拡大を目指す。

## ○ 成田空港・周辺地域と連携したワーケーション・テレワーク推進

### [県・市町村が行う地方創生関連事業と連携・連動した事業]

ウィズコロナの観点から、国内で浸透しつつあるワーケーション・テレワークの取組について、成田空港を起点に県内へ推進する。将来的には、成田空港経由のワーケーション誘客による関係人口創出をねらいとする。

セミナーにて先進事例や企業の取組を学ぶとともに、会員相互の交流を促進することで、成田空港・周辺地域のワーケーション受入体制の構築に取り組んだ。

※ワーケーションとは、WorkとVacationを組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、普段の職場とは異なる場所で仕事を継続しながら、地域での活動も行うこと。

日 時：令和4年10月25日（火） 13時30分～16時00分

場 所：成田市文化芸術センタースカイタウンホール3階多目的ホール

参加者：19名

内 容：第一部 セミナー

(1) 近畿日本ツーリストのワーケーションへの取組について

近畿日本ツーリスト 千葉支店 小宮 めぐみ 氏

(2) ワケーションの現状・他地域の取組等について

(一社) 日本テレワーク協会 主席研究員 大沢 彰 氏

(3) ワケーション トークセッション

(一社) 日本テレワーク協会 主席研究員 大沢 彰 氏

(一財) 地域活性化センター シニアフェロー 箕浦 龍一 氏

(4) 千葉県『ちばワーケーション受入促進事業』について

千葉県商工労働部観光企画課魅力ある観光地づくり推進班

高梨 健太 氏

第二部 情報交換会（エリアや業種ごとに実施）

- 千葉県内でも、成田空港を有する優位性や東京に隣接した立地性により、一部ワーケーションを進める動きが多くみられてきてはいるが、当協議の会員については、関心はあるものの、導入自体を検討していないのが実情であった。
- 今後については、会員団体による事業の自走化を図っていく。

## ○ 空港関連企業の雇用確保に向けた教育機関と連携した取組

### 【県内大学等の教育機関等と連携した人材育成や知見の活用を目指す事業】

航空／空港関連企業の従業員数は、成田空港の更なる機能強化により、事業規模の拡大が必要になると見込まれているが、グランドハンドリングなど一部の業種・職種では現在でも人手不足が課題となっている。

そこで将来的な航空／空港関連企業の採用確保や航空人材の育成を図るため、高等学校における航空／空港関連業種に関する出張授業を行った。

#### ① 千葉敬愛高等学校における出張授業

- ・実施日：令和4年11月7日（月）
- ・日 時：15時45分～17時15分
- ・会 場：千葉敬愛高等学校 マルチホール
- ・参加者：生徒 32名
- ・内容・講師

「WORK at NARITA AIRPORT」(株) Flact

「JAL現役グランドスタッフによる航空出張授業

～空港で活躍するグランドスタッフ」(株) JALスカイ

#### ② 千葉県立匝瑛高等学校における出張授業

- ・実施日：令和4年12月21日（水）
- ・日 時：13時30分～15時10分
- ・会 場：千葉県立匝瑛高等学校 化学講義室
- ・参加者：生徒 30名
- ・内容・講師

「WORK at NARITA AIRPORT」(株) Flact

「空港で働くANA現役社員による航空出張授業」

ANA成田エアポートサービス (株)

#### ③ 八千代松陰中学校・高等学校における出張授業

- ・実施日：令和4年2月18日（土）
- ・日 時：11時00分～12時30分
- ・会 場：八千代松陰中学校・高等学校 教室
- ・参加者：生徒 21名
- ・内容・講師

「WORK at NARITA AIRPORT」(株) Flact

「JAL現役グランドスタッフによる航空出張授業

～空港で活躍するグランドスタッフ」(株) JALスカイ

④ 千葉県立松尾高等学校における出張授業

- ・実施日：令和5年3月16日（木）
- ・日 時：13時00分～14時30分
- ・会 場：千葉県立松尾高等学校 視聴覚室
- ・参加者：生徒 27名
- ・内容・講師

「WORK at NARITA AIRPORT」(株) Flact

「日本と世界を結ぶ、貨物のお仕事」 国際空港上屋(株) 貨物業務担当者

- 「航空／空港関連業種についての出張授業」を県内の4高等学校において実施することで、成田空港で様々な仕事があること、特定の業種・職種の業務内容について、実際に担当している方から、生徒に紹介することができた。
- 引き続き、教育機関と連携し、出張授業などの実施を検討する。

○ 将来的な人材育成・確保に向けた体験型航空教室等実施支援事業

(県内高校生を対象とした体験型航空教室)

**【県内大学等の教育機関等と連携した人材育成や知見の活用を目指す事業】**

航空／空港に関連する様々な仕事・職を知ってもらい、航空／空港業界の人材育成・確保を図るため、県内高校生及び進路指導教諭を対象に、施設見学や現役スタッフを交えた座談会などの航空現場の魅力ややりがいを紹介する「体験型航空教室」を実施した。

(1) ツアー1 (GPA+JAL)

実 施 日：令和4年11月23日（水・祝）

開催場所：成田国際空港第2旅客ターミナルビル及び空港内制限エリア

参加者等：23校77名（男性14名、女性61名、先生2名）

内 容：

- ① グランドスタッフ業務紹介・体験 又は 航空機整備工場見学
- ② ランプ内周遊ツアー
- ③ 出発機お見送り体験
- ④ 現役スタッフとの座談会

(2) ツアー2 (GPA+ANA)

実 施 日：令和4年11月27日（日）

開催場所：成田国際空港第1旅客ターミナルビル及び空港内制限エリア

参加者等：16校56名（男性18名、女性37名、先生1名）

内 容：

- ①チェックイン・アナウンス業務紹介・体験
- ②グランドハンドリング業務紹介
- ③現役スタッフとの座談会
- ④ランプ内周遊ツアー

- アンケート結果によると、当イベント参加者の満足度は非常に高かった。現役スタッフから直接、仕事のやりがいなどについて話を聞く機会を得られたことが、航空／空港関連業種に興味や関心を高める結果となったと考えられる。
- 当該事業については、将来にわたる人材確保という観点で、出張授業事業とも連携を図りつつ、体験内容の見直しを行いながら継続して取り組んでいきたい。

## ○ 将来的な人材育成・確保に向けた体験型航空教室等実施支援事業

（成田空港合同企業説明会・見学会）

**【県内大学等の教育機関等と連携した人材育成や知見の活用を目指す事業】**

人材不足が懸念されるグランドハンドリング会社等、空港内関連企業21社による合同企業説明会・空港見学会の後援として、当協議会の自治体会員等を通して開催の周知を図った。

実施日：令和5年2月6日（月）

場 所：幕張メッセ 国際会議場2F 国際会議室

概 要： 空港内関連企業21社による合同企業説明会・空港見学会

（主催：成田国際空港株式会社、後援：千葉労働局、成田空港活用協議会）

参加企業：21社

入場者数：477名

- 今後も成田空港や航空関連産業の従事者を確保するため、後援等の協力を継続することとしたい。

## ○ 地域課題解決のための検討会

**【過去5年間の成果をさらに拡大していく事業】**

地域の会員のニーズを十分に把握するため、安房地域、夷隅地域及び東葛飾地域において、地域ミーティングを開催し意見交換を行った。



また、地域ミーティングでの意見を踏まえて、地域課題解決に向けて検討するための事業を実施した。

#### (1) 地域ミーティングの実施

##### ① 安房地域ミーティング

- ・実施日：令和4年4月27日（水）
- ・日 時：10時00分～11時40分
- ・会 場：千葉県安房地域振興事務所 3階大会議室
- ・参加団体など：館山市、鴨川市、南房総市、南房総市観光協会、  
(株)ちばぎん総合研究所
- ・オブザーバー：千葉県安房地域振興事務所

##### ② 夷隅地域ミーティング

- ・実施日：令和4年4月27日（水）
- ・日 時：14時40分～16時40分
- ・会 場：いすみ市役所 3階会議室
- ・参加団体など：いすみ市、大多喜町、(株)ちばぎん総合研究所
- ・オブザーバー：千葉県夷隅地域振興事務所

##### ③ 東葛飾地域ミーティング

- ・実施日：令和4年7月7日（水）
- ・日 時：10時00分～12時00分
- ・会 場：千葉県東葛飾合同庁舎 6階第1会議室
- ・参加団体など：松戸市、柏市、我孫子市、鎌ヶ谷市、  
(株)ちばぎん総合研究所
- ・オブザーバー：千葉県東葛飾地域振興事務所、成田国際空港(株)

#### (2) 地域ミーティングを踏まえた事業の実施

##### ① 安房地域

- ・成田から安房地域へのインバウンドの誘客可能性を検討するため、南房総市観光協会が、成田・安房地域間にJR東日本の「B. B. BASE」（自転車とともに移動できる電車）を走らせるモニターツアーを計画した。
- ・活用協は、成田市及び成田市観光協会へ広報協力を依頼するとともに、県の「チーバくんパートナー」やエアラインの外国人乗務員等が当モニターツアーに参加するための参加費用や交通費等を助成し、インバウンド視点での意見・感想を事業実施者へ提供した。

##### ② 夷隅地域

- ・成田空港から夷隅地域へ国内外の観光客を呼び込むため、一般社団法人

ツーリズムいすみへの委託により、広域観光メニュー（自家用有償旅客運送を活用した成田空港発の3つのモデルコース）の開発及び実証事業を実施した。

### ③ 東葛飾地域

- ・第2回県内経済活性化ビジネスセミナー「柏の葉に学ぶ産業集積と北千葉道路への期待」の開催（令和5年1月26日）につながった。

- 地域ミーティングを実施することにより、空港から離れた地域が抱える課題（成田空港発のインバウンドの取込み等）について把握することができた。
- 事業実施時に参加者から得られた意見を関係者間で共有し、地域の課題解決につなげることをしたい。

## ○ 第1回県内経済活性化ビジネスセミナー

（会員ニーズを踏まえたセミナー等の実施）

### 【過去5年間の成果を更に拡大していく事業】

日 時：令和4年5月23日（月）

場 所：TKPガーデンシティ千葉

参加者：101名

内 容：

#### ①持続可能な航空燃料（SAF）の導入促進に向けた取組

講師：国土交通省 航空局 航空戦略室 カーボンニュートラル推進室  
室長 岡 建典 氏

#### ②成田空港における脱炭素化に向けた取組

講師：成田国際空港株式会社 経営企画部門 経営計画部  
サステナビリティ推進室 マネージャー 片岡 祥 氏

- 今回、各会員から脱炭素における「事例紹介」・「補助金・支援策」への高い関心が示されたことから、会員意見を取り入れ、脱炭素に繋がる取組を検討・実施してまいりたい。

## ○ 圏央道全線開通を見据えた企業誘致に向けた取組

### 【空港周辺・圏央道等への産業集積を促進する事業】

#### 第2回県内経済活性化ビジネスセミナー

～柏の葉に学ぶ産業集積と北千葉道路開通への期待～

交通インフラ整備による沿線開発の好事例として、柏の葉スマートシティにおける産業集積の取組について学ぶとともに、東葛地域が更なる機能強化の進む成田空港とつながることで期待される経済活性化効果について共有し、北千葉道路の整備促進や周辺開発・産業集積への機運醸成を図った。セミナーと視察を同時開催した。

日 時：令和5年1月26日（木）

場 所：柏の葉カンファレンスセンター

参加者：30名（A班13名、B班17名）

## 内 容

### （1）セミナー：

#### ①北千葉道路の整備と成田空港の機能強化による経済活性化

株式会社ちばぎん総合研究所 取締役社長 前田 栄治 氏

#### ②柏の葉スマートシティにおける産業集積について

三井不動産(株) 柏の葉街づくり推進部 グループ長 吉崎 典孝 氏

### （2）視 察：

#### ①スマートセンター

#### ②まちの健康研究所 あ・し・た

#### ③公共空間の整備状況(公道・AIカメラ・調整池)

#### ④三井ガーデンホテル柏の葉パークサイド

#### ⑤三井リンクラボ柏の葉

- 「北千葉道路」については、ちばぎん総研前田氏から「開通に伴う経済効果」及び「千葉イノベーションスクエア構想」について説明いただいたことで、千葉県における中長期的な展望を共有できた。会員からは、東葛地域(柏・船橋・鎌ヶ谷)が成田空港と繋がっていく、思ったより近いという意見も出ていた。
- 「柏の葉」については、三井不動産吉崎氏より、セミナー・視察が行われ、会員より、特に官民主体ではない、産学公の連携した産業集積のあり方に驚きの声があがっていた。
- 今回、会員より改めて「産業集積」(セミナー内容・大いに参考、78%)への高い関心が示されたことから、引き続き、産業集積への機運醸成に繋がる取組を検討・実施してまいりたい。

## 【2】空港利用促進事業

### ○ 空港利用回復事業

#### 【過去5年間の成果を更に拡大していく事業】

新型コロナウイルスの影響によって、依然として航空需要が低迷しているなか、県内経済の回復のためには、早期の空港利用者の回復が望まれるところである。

こうしたなか、国際線に先行して利用回復の兆しが見られる国内線について、成田空港の充実した国内線ネットワークや利便性等を各種の施策、媒体を通じてPRすることにより、県内をはじめとした需要を喚起し、空港利用者の回復の後押しを行った。

#### (1) 成田空港国内線利用者向けプレゼントキャンペーンへの賞品提供

成田空港周辺地域振興連絡協議会が主催する「成田空港国内線利用者向けプレゼントキャンペーン」に賞品を提供した。

時 期：令和4年10月20日（木）～12月20日（火）

提供賞品：千葉県 welcome コース

- ①千葉県宿泊補助券（10,000円分） 10名様
- ②酒々井プレミアム・アウトレットお買い物券（5,000円分） 3名様
- ③鴨川シーワールド大人ペア入場券 3名様
- ④成田ゆめ牧場大人ペア入場券 3名様
- ⑤チーバくんグッズ詰め合わせ 3名様

#### (2) アクアラインマラソンへのエコバッグ（トートバッグ）の提供

「ちばアクアラインマラソン2022」において、大会スポンサーの成田国際空港(株)と連携を図りながら成田空港利用促進に繋がるPRを実施した。

時期：令和4年11月6日（日）

場所：アクアラインマラソン メインイベントエリア

内容：エコバッグ（トートバッグ）1,000枚 提供

成田空港ブースにおいて、当協議会で作成した国内線PRデザインのパネルを設置し、成田国際空港(株)担当者と一緒にエコバッグ（トートバッグ）の配布を実施した。また、成田国際空港(株)で用意した「ゼッケン留め（NAAロゴ入り）」をあわせて配布した。

#### (3) コピー用紙への紙面広告の掲載、LINE配信

成田空港の充実した国内線ネットワークや利便性等をアピールする内容のコピー用紙（紙面広告）を作成し、全国の大学に設置してあるコピー機を通して

幅広く浸透を図った。関連して、LINE配信とアンケート調査を実施した。

実施時期：令和5年3月30日～5月15日

数 量：コピー用紙 50,000 枚（全国 76 大学 86 キャンパス）

LINE配信 約 19,000 件（サークル・学生団体等のグループ）

#### （4）第2回日本観光ショーケース in 大阪・関西への出展

大阪で開催された「観光ショーケース」へ出展し、成田-大阪路線（関空・伊丹）利用による関西圏からの誘客を図った。また、出展に際しては、会員との連携を図り、観光ショーケースの直前（3/10～21）に大阪梅田で開催していた県の期間限定アンテナショップに観光ショーケースへの誘導チラシを設置するほか、ガラガラ抽選会の賞品については、千葉県に関連したものに特化した。

日時：令和5年3月24日（金）～ 26日（日）

場所：インテックス大阪

内容：①来場者に対して成田空港の国内線利用実態のアンケートを実施し、回答者にはガラガラ抽選で千葉県に関連した賞品をプレゼントした。  
②県内の景勝地等を組み合わせた撮影スポットを設置した。  
③千葉の魅力を発見してもらうため、モニターでの動画放映とパンフレットラックを設置した。

#### （5）成田空港第1ターミナルビルパンフレットラックでのPR

緩和措置によるインバウンド需要に対応するため、訪日外国人を対象とした日本で提供されるサービス等が載っているパンフレットを成田空港内に置いて県内の魅力をPRした。

実施時期：令和5年1月～令和6年3月

掲出場所：成田空港第1ターミナル中央ビル1階

内 容：会員から募集した訪日外国人向けのパンフレットを当該場所に置き、県内への観光等をPRした。

掲出実績：12会員（令和5年3月31日現在）

#### （6）イベント等での配布を目的としたエコバッグ、パンチボールの作成

成田空港を想起させ日常的にも使いやすいデザインのエコバッグ（トートバッグ）1,000枚、お子様向けのパンチボール500個を作成した。今後の当協議会が関係するイベント等で配布することで、PR効果を高めていく。

- 新型コロナウイルスの影響が続く中、全国旅行支援や緩和措置によるインバウンド需要を取りこぼさないよう、会員と連携して事業を実施した。
- 次年度は、引き続き会員との連携を図りつつ、誘客に加えて県民の送客についてのPRも展開できるように計画し、成田空港の利用回復を後押しする事業を実施してまいりたい。

### 【3】基本的な取組

#### ○ 要望活動

##### ・首都圏中央連絡自動車道及び北千葉道路の整備推進に関する要望

圏央道及び北千葉道路の整備推進に向けて、関係2団体とともに、国等へ要望活動を行った。

実施日：令和4年11月24日（木）

要望先：財務大臣、財務副大臣、財務大臣政務官、財務事務次官、主計局長、国土交通大臣、国土交通副大臣、国土交通大臣政務官、国土交通事務次官、国土交通省技監、大臣官房長、道路局長  
財務省・国土交通省幹部職員及び県選出国會議員

同時に要望した関係団体：千葉県議会首都圏中央連絡自動車道推進議員連盟  
首都圏中央連絡自動車道建設促進県民会議

#### ○ 会員相互の情報共有

##### ・会員向け情報発信の強化

協議会の活動を広く広報するため、プレスリリース（令和4年度：7件）はもとより、各種メディア 媒体の利用や報道機関へのアプローチを展開することにより、メディアへの露出を積極的に図った。

協議会の会員向けにメール等での情報発信を行い、会員間における活動状況や成果の共有を図った。また、会員に対する情報発信を強化するため、令和3年度から、当協議会の活動状況等をまとめたニュースレターを各会員に送付しており、令和4年度は7回発行した。

会員によるプロモーションと連携・連動し、協議会及び協議会会員のPRを行った。

## ○ 会員提案の募集・具体化

### ・会員提案の募集

第3期第1フェーズ事業に係る本県の経済活性化につながる取組として、他の会員との連携・協働により取り組みたい事業の提案について募集した。(なお、会員からの事業提案は随時募集している。)

募集期間：令和4年12月23日(金)～令和5年1月20日(金)

提案状況：会員からの事業提案(14件)

### ・会員提案の検討・具体化

令和4年度事業として、以下の会員提案を事業化し実施した。

- ・アクティビティ(体験型)商品開発
- ・航空/空港関連企業との商談会
- ・ランドオペレーターとの商談会
- ・日本文化の発信によるターミナル空間の価値向上及び近隣エリアへの誘客
- ・成田空港・周辺地域と連携したワーケーション・テレワーク推進
- ・空港関連企業の雇用確保に向けた教育機関と連携した取組
- ・県内高校生を対象とした体験型航空教室
- ・空港利用回復事業